洪　水

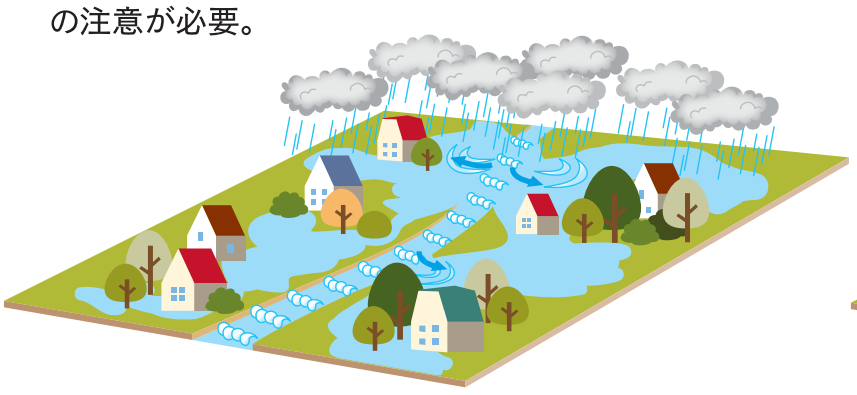
大雨などで、川の水量の増加や地中にしみこんだ水分などが起因となり、大きな災害に発展する場合があります。事前にその災害のメカニズムを理解し、身近に起こりえる災害に対応しましょう。

川のはん濫

雨量の増加によってもたらされるはん濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水はん濫」と、街中の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「内水はん濫」の2タイプがあります。

● 外水はん濫 ●

大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を越える。あるいは堤防を決壊させて川の水が外にあふれておきる洪水。はん濫が起きると一気に水かさが増しますので、最大の注意が必要。



● 内水はん濫 ●

その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはけきれずに溜まっておきる洪水。川の水位が何mに達すれば警報を出すなどの対応が難しいため、注意が必要。

洪水ハザード情報

河川水位及び危険度レベル

レベル	水位	町や住民に求める行動
5		・町および住民は、新たにはん濫が及ぶ区域で避難の判断が必要
	はん濫の発生	
4（危険）		・住民の避難完了
	はん濫危険水位	
3（警戒）		・町は避難勧告等の発令を判断 ・住民は避難を判断 ↓ 避難勧告の発令
	避難判断水位	
2（注意）		・町は避難準備情報発令（要救護者避難情報）を判断 ・住民ははん濫に関する情報に注意 ・消防団出動 ↓ 避難準備・高齢者等避難開始情報の発令
	はん濫注意水位	
1		・消防団待機
	水防団待機水位	

●大分県河川課（雨量・水位観測情報）
町内河川の現在の様子をインターネットでご覧いただけます。
（携帯電話・スマートフォンの方は以下の QR コードから接続できます）

●大分県雨量
・水位観測情報
http://river.pref.oita.jp/

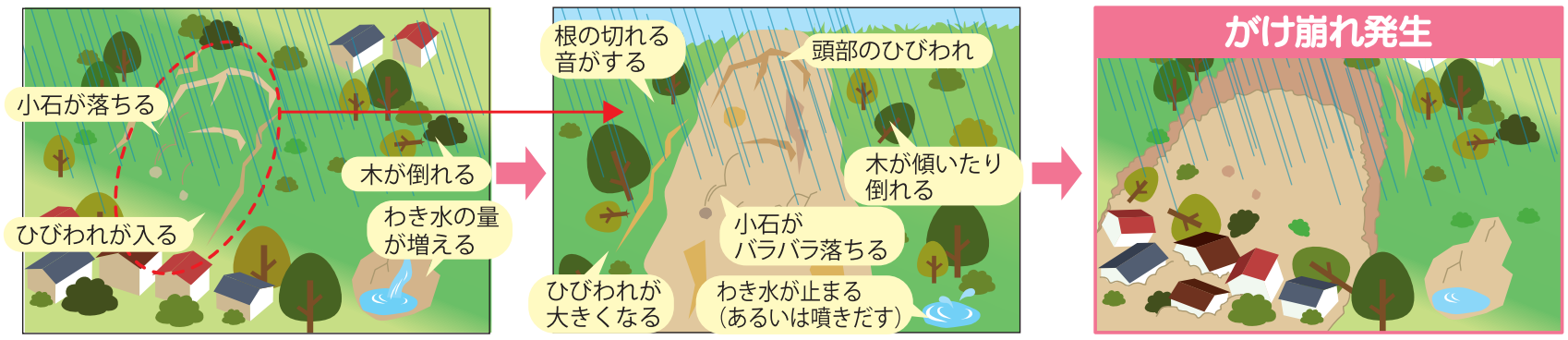
●日田玖珠九重Webカメラ
画像提供システム
http://webcamera.city.hita.oita.jp/cameratop.html

土砂災害

土砂災害警戒情報が発表されていなくても、ふだんと異なる状況「土砂災害の前兆」に気づいた場合には、直ちに周りの人と安全な場所へ避難しましょう。また、日ごろから危険箇所や避難場所・避難経路を確認しておくことも重要です。

がけ崩れ

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。



土石流

山腹・川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20～40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。

地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土塊量が大きいため、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。

※上記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるというものではありません。
ふだんと違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

風水害・台風

大雨や強風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。
ふだんから気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

大雨情報をキャッチ！ こんなときのわが家の安全対策。

■ 大雨注意報・大雨警報・記録的短時間大雨情報の発表基準

大雨注意報
大雨による災害が発生するおそれがあると予測される場合。
【発表基準】
表面雨量指数 9以上
土壌雨量指数 104以上

大雨警報
大雨による重大な災害が発生するおそれがあると予測される場合。
【発表基準】
表面雨量指数 13以上
土壌雨量指数 131以上

記録的短時間大雨情報
土砂災害や浸水害、中小河川の洪水害の発生につながるような猛烈な雨が降っている場合。
【発表基準】
1時間雨量 110mm以上

※表面雨量指数とは、短時間強雨による浸水害リスクの高まりを示す指標です。
※土壌雨量指数は、降雨による土砂災害リスクの高まりを示す指標です。

風の強さと吹き方

（平均風速：m／秒）

10m/秒以上～15m/秒未満	15m/秒以上～20m/秒未満	20m/秒以上～25m/秒未満	25m/秒以上～
風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	風に向かって歩けない。転倒する人もいる。	しっかりと身体を確保しないと転倒する。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。	立っていられない。屋外での行動は危険。樹木が根こそぎ倒れはじめる。

台風

（平均風速：m／秒）

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらします。
台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

大きさ	風速 15m/秒 以上の半径
大型（大きい）	500km 以上～800km 未満
超大型（非常に大きい）	800km 以上

強さ	最大風速
強い	33m/秒 以上～44m/秒 未満
非常に強い	44m/秒 以上～54m/秒 未満
猛烈な	54m/秒 以上

雨の強さと降り方

（1時間雨量：mm）

10mm 以上～20mm 未満	20mm 以上～30mm 未満	30mm 以上～50mm 未満	50mm 以上～80mm 未満	80mm 以上～
雨の音で話し声がよく聞き取れない。	ワイパーを速くしても見づらい。側溝や下水、小さな川があふれる。	山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。	マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。	雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要。

集中豪雨

集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して降る豪雨で、梅雨の終わりごろによく発生します。発生の予測は比較的困難で、中小河川のはん濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

- ◆ラジオやテレビなどの気象情報に注意する。
- ◆町や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- ◆停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- ◆非常時持ち出し品を準備しておく。
- ◆早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- ◆飲料水や食料を数日分確保しておく。
- ◆浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- ◆危険な地域では、いつでも避難できるよう準備をする。

火　災

1人で消せるだろうと考えず、隣近所に火事を知らせ、すみやかに119番通報を。初期消火で火事を消せなかったら、すばやく避難しましょう。

初期消火の3原則

1 早く知らせる

- 「火事だ」と大声を出し、隣近所に援助を求める。声が出なければやかんなどを叩き、異変を知らせる。
- 小さな火でも119番に通報する。当事者は消火に当たり、近くの人に通報を頼む。

2 早く消火する

- 出火から3分以内が消火できる限度。
- 水や消火器だけで消そうと思わず、座布団で火を叩く、毛布で覆うなど手近なものを活用する。

火元別初期消火のコツ

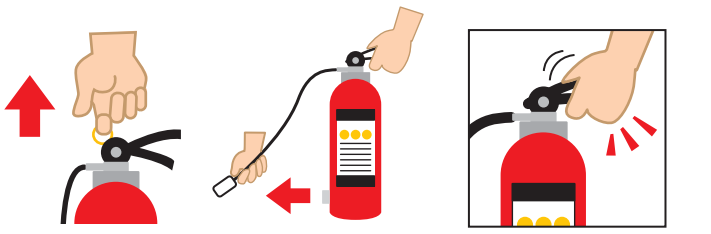
油なべ	水をかけるのは厳禁。消火器がなければ、ぬらしたタオルをかぶせる。
ストーブ	消火器は直接火元に向けて噴射する。石油ストーブの場合は粉末消火器で。
衣　類	着衣に火がついたら転げまわって消すのも方法。
電気製品	いきなり水をかけると感電の危険が。まずコードをコンセントから抜いて消火を。
カーテン・ふすま	引きちぎり蹴り倒して火元を天井から遠ざけ、その上で消火を。

3 早く逃げる

- 天井に火が燃え移った場合は、速やかに避難する。
- 避難するときは、煙を吸わないように鼻と口を服やハンカチでふさぎながら避難する。

消火器の使い方

粉末・強化液消火器の場合



安全ピンに指をかけ上に引き抜く。

ホースをはずして火元に向ける。

レバーを強く握って噴射する。握れないときは消火器を置いてバーを手で上から押す。

消火器のかまえ方

- 風上に回り風上から消す。炎にはまともに正対しないように。
- やや腰を落して姿勢をなるべく低く。熱や煙を避けるように構える。
- 燃え上がる炎や煙にまどわされずに燃えているものにノズルを向け、火の根元を掃くように左右に振る。

火災予防が一番!!

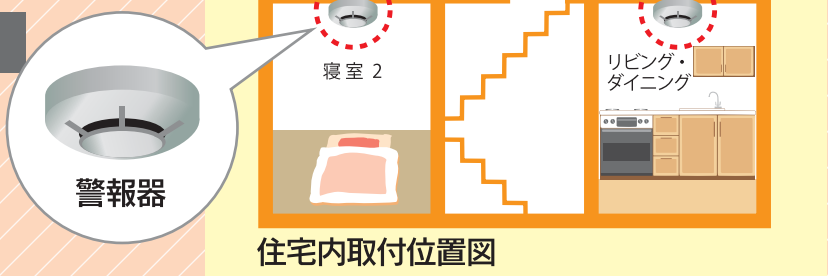
住宅用火災警報器の設置義務化

消防法の改正により、住宅用火災警報器の設置が義務付けられました。

火災による死傷者を無くすためにも設置しましょう。

火災警報器の設置場所

- 寝　室…すべての寝室（子供部屋や老人の居室など就寝に使われている場合は対象となります）への設置が必要です。
- 階　段…寝室のある部屋の階段の天井などへの設置が必要です。
- 台　所…台所への設置もおすすめします。



住宅内取付位置図

地　震

地震発生時の時間経過別行動マニュアル

※就寝時の注意点については、P14もご確認ください。

地震発生

1〜2分

最初の大きな揺れは約1分間

◆**まず、身を守る安全確保**　手近な座布団などで頭を保護
◆**すばやく火の確認**　ガスの元栓、コンセントの処置
◆**大きな揺れの場合は、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所に一時避難する**

揺れがおさまったら

◆**火元を確認**　火が出たら、落ち着いて初期消火
◆**家族の安全を確認**　倒れた家具の下敷きになっていないかを確認
◆**靴をはく**　家の中はガラスの破片が散乱。靴や厚手のスリッパをはく
◆**避難するときは、屋根瓦・ブロック塀・自動販売機・倒木・土砂災害等に注意**
◆**津波などの危険が予想される地域はすぐ避難**

3分

みんなの無事を確認　火災の発生を防ぐ

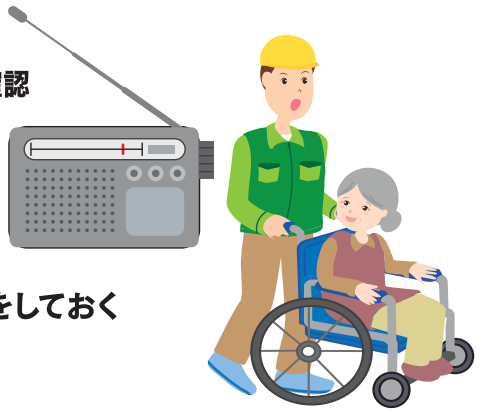
隣近所に声をかけよう
◆**要配慮者の安全確保**　**隣近所で助け合う**
◆**行方不明者はいないか**　◆**ケガ人はいないか**

出火防止 初期消火
◆**初期消火**　消火器を使う　バケツリレー　風呂の水はため置きをしておく
◆**漏電・ガス漏れに注意**　◆**電気のブレーカーを下ろす・ガスの元栓を閉める**　◆**余震に注意**

5分

ラジオなどで正しい情報を得る

◆**大声で知らせる**　◆**救出・救護を**　◆**防災機関、自主防災組織の情報を確認**
◆**デマにまどわされないように**　◆**避難時に車は極力使用しない**
◆**電話は緊急連絡を優先する**



10分

数時間

協力して消火活動、救出・救護活動

◆**水、食料は蓄えているものでまかなう**　**3日間の飲料水と食料の備蓄をしておく**
◆**災害・被害情報の収集**　◆**無理はやめよう**
◆**助け合いの心が大切**　◆**壊れた家に入らない**

3日

屋内にいた場合

家の中

◆揺れを感じたら、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所へ避難する。
◆乳幼児や病人、高齢者や障がい者の安全を確保する。

集合住宅

◆ドアや窓を開けて避難口を確保する。
◆避難にエレベーターは絶対に使わない。

デパート・スーパー

◆頭を保護し、ショーウィンドウや商品などから離れる。
◆柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞く。

劇場・ホール

◆頭を保護し、座席の間に身を隠し、係員の指示を聞く。

屋外にいた場合

路上

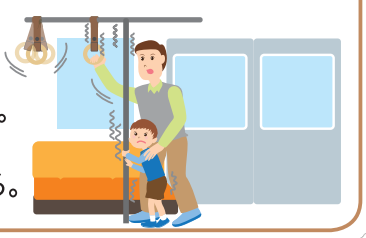
◆その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などに避難する。
◆近くに空き地などがないときは、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
◆ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
◆倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。

車を運転中

◆ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両などの通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
◆避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。

海岸付近

◆高台へ避難し津波情報をよく聞く。
◆注意報・警報が解除されるまでは海岸に近づかない。

列車などの車内

◆つり革や手すりに両手でしっかりつかまる。
◆途中で止まっても、勝手に車外へ出ない。
◆乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとる。